令和８年度第１回総合教育会議　会議録

日時　令和８年１０月１９日（月）
午前１０時～午前１１時３０分
場所　本庁舎会議室４０１

１　出席者
夏野市長
金谷教育長、眞岸委員、宮原委員、成田委員、二川委員

＜事務局＞
企画管理部　長谷川部長、盛光次長
政策推進課　黒川課長、安念課長補佐、橋本係長、吉川主任、井沢主事
教育委員会事務局　作道事務局長、小谷内次長、竹内次長
学校教育課　佐藤課長、川渕課長補佐、中林副主幹、中波係長
生涯学習・スポーツ課　金三津課長補佐、明神係長

２　議題（１）スポーツツーリズムの推進について
■委員
スポーツツーリズムの実績の中で令和８年度の実績（予定）が倍増しているが、要因としてどのようなことが考えられるか。

■事務局
令和７年度に利用いただいた石川県の㈱SPORTY（大会主催者）に本市会場等を気に入っていただき、今年度も５大会を開催していただく予定である。同社が実施したこれまでの大会は七尾市の和倉温泉運動公園多目的グラウンドを利用してきたが、令和６年能登半島地震の影響により使用できないことも要因の１つと推測される。
また、富山県サッカー協会において補助金の活用を各種団体に周知していただいていることも理由として考えられる。

■委員
これからもリピーターが増えるとよい。フットボールセンターは他市にない施設であるが、きときとの魚・農産物、内川や海王丸パークなどの景観を活かしきれていないと感じる。スポーツコミッションは、地域の自然・文化資源のコンテンツ化と官民一体の推進に大きな役割を果たせるため、組織化をしっかり行ってほしい。
海竜スポーツランド移転により、フットボールセンターと一体化すれば相乗効果が生じると見込まれる。不足機能を新施設で解決し、運動後のケアでも活用できるようにしたい。市外の継続利用が多いため、学校プール利用も含め、多世代で利用できる

市民プールを検討してほしい。

■事務局

委員ご発言のとおり、海竜スポーツランドは市民プールという形で検討している。また、市民プールだけでなく、小学校の水泳授業についても活用していきたいと考えている。

サウンディング調査でもフットボールセンター隣接地（東側）が適地という結果がほとんどであったが、多角的に検討するため、海竜スポーツランド再整備候補地検討支援業務委託を実施しており、専門事業者の力を借りて確認していきたいと考えている。フットボールセンターの不足機能等もできる限り補完し、市民が使いやすい施設にしていきたい。

■委員

フットボールセンターで高校生の試合を観覧した際、利用者が廊下や屋外で打合せをしていた。会議場所があると滞在時間が増えると思うので、海竜スポーツランド新築時に会議室またはミーティングルームを作り、サッカー場利用者も併用できるようにしてはどうか。

試合後のアフターケアも大切なため、疲労を早く取る設備も検討してほしい。エリア全体で利用したいと思われる施設づくりが重要なのではないか。キッチンカー出店数が少ないため、市民やお店に広く情報発信し調整するコーディネーターがいるとよい。試合日程や来場予定者層などの情報提供により、スムーズに人やお店が集まり、経済効果が出ると思う。お年寄りも子どもも対象にできたら良い。富山マラソンのジョギング部のような「きときと市場発フットボールセンターゴール」のジョギングコースや、健康スタンプラリーなど様々なイベントをコーディネーターに考えてもらえたらと思う。観覧者も含め、全員が楽しめる施設になることを期待している。

■事務局

キッチンカー、ミーティングルーム、トレーニングルーム、アイスバスなどの不足設備は、フットボールセンターと海竜スポーツランドで相互利用できるよう検討する。利用者アンケートでもそうしたご意見をいただいている。先進事例も参考にしながら、スポーツツーリズムの発展を検討していく。射水市版ジョギング、健康スタンプラリーなど、多世代が楽しめるイベント企画についても今後検討したい。

コーディネーターについては、１１月にスポーツツーリズム推進コーディネーターとして地域おこし協力隊１名を任用予定。その方を中心にスポーツツーリズムを推進していきたい。

■委員

本市のスポーツツーリズムの課題として、特に先ほどからハード面で海竜スポーツランドの建て替えの話が挙げられているが、海竜スポーツランドは今まで市民プール

としての役割を果たしてきた。学校教育の面から、すでにプールが置かれていない堀岡小学校や老朽化が進んでいる東明小学校、令和９年度からは新湊放生津小学校の児童たちが海竜スポーツランドでのプール授業を実施していくことを考えると、海竜スポーツランドは市民プールとしての役割だけでなく、学校プールの代替施設の役割も大きくなっていくと予想される。小学校のプール授業での利用について、事務局の考えを伺いたい。

■事務局

市民プールとしての役割だけではなく、小学校のプールの代替施設という役割も考えている。今後学校プールの大規模改修が必要となる時期までは学校のプールを利用し、それ以降は海竜スポーツランドのプール等新しい施設に振り分けていく予定。また、専門家による水泳指導も取り入れながら、子どもたちの水泳の技術の向上を図っていきたいと考えている。

■委員

海竜スポーツランドが改修となる場合、工事期間は小学校のプール授業を同施設で実施することができない。この場合、小学校は民間プールの利用を検討せざるを得ないため、学校に負担が生じる。

今の海竜スポーツランドはそのままとして別の場所に新築する方向性で考えると、学校の体育の授業でプールを使うときには現在の海竜スポーツランドを使用し、新築工事が完了したら新しい海竜スポーツランドに切り替えることで、授業の場所を確保することができる。このことについても、配慮いただけるとありがたい。

■事務局

今いただいたお話も教育委員会内等で十分検討を図っていきたい。

■委員

スポーツツーリズムの情報をワンストップで提供できる体制を考えながら、観光協会や旅行会社などと連携を図っていくものと思う。ワークショップで多くの人に射水市の魅力を知ってもらい、誘致につながるとよい。新たな魅力や多角的な見方が広まることを期待している。選手だけでなく、見る人や応援する人も来市時に各自で予約するが、ワンストップで情報が提供されれば予約の手間が省ける。コーディネーターにプランとして提案いただき、民間事業者やスポーツ団体、観光協会と連携してほしい。

■事務局

本市で開催されるスポーツ合宿、イベントの開催サポートのために、補助金制度をはじめとして合宿を応援するための宿、合宿用のアスリートの弁当、宿泊のための予約等を一元的にホームページで紹介できるようにしていきたいと考えている。今後、

ワークショップの中でいろいろなご意見をいただきながら実現していきたい。

■教育長

現在、射水市では中学校部活動の地域展開を行っている。休日の地域展開は完了しており、平日の展開に向けて準備中を進めている。休日の地域展開を進めていく中で限界を感じたのは、今のスポーツをしている体制が、小学校はスポーツ少年団、中学校・高校は部活、社会人を含む大学生以降の方々は自分の目標やライフスタイルに合わせて行っている状態。子どもたちは競技でつながっているものの、保護者の方や教員、仲間内など、周りにいる方々のつながりが薄く、それぞれの世代での分断がどうしてもネックになっていた。

小学生の中には中学校の部活にないものをやっている子もいるが、やっぱりどこかで「中学生は中学校にある部から選ぼう」という意識があり、中学校に入学すると辞めてしまう。もっと世代間のつながりを持たないといけないと感じた。例えば、スポーツをやっている小学生だけでなく、それを取り巻いている人たちも全部巻き込んで、それを通じて中学生など別の世代ともつながりを持てるようにするべきではないか。

ご高齢で走るのが難しい方も歩いて参加したり、見る機会が増えれば支える側で手伝ったり、裾野が広がるとよい。射水市自体がスポーツに関わろうとしながら、意欲的かつ前向きで元気な街になっていくとよい。交流人口の増加や流出人口減少にもつながるのではないかと思う。子どもたちが大人を見る目が変わり、地域を大切にしていこうとする気持ちが高まっていくと良い。

■市長

スポーツの推進を通じて交流人口を拡大していきたい。また、それに伴い、地域活性化はもちろんのこと、スポーツを盛り上げていきながらスポーツにかかわる・支える機会を増やしていくことで、最終的には市民の皆さんの健康や活力につながっていくと良い。

スポーツツーリズムを進めていく中で、射水市の一番の強みはフットボールセンターをはじめとした充実した施設だと思う。フットボールセンターは大会の開催も増えており、利用した方へのアンケートでも素晴らしい施設だという声がある。こういった施設があることをさらに発信しつつ、新たな大会・合宿の誘致等につなげていきたい。そのためには、施設として足りない部分を新たな施設の中で補完できるようであれば、そういったことも検討していく。

海竜スポーツランドについては、小学校のプールの授業は夏の猛暑でそもそも外で授業ができない日もある。現実的に、屋内施設で考えていかないとプール授業ができないこともある。市内全部の小学校を１つの施設で実施となるとなかなか難しいが、まずは海竜スポーツランドでそういった体制を整えていく。もちろん市民プール機能も担う必要があるため、棲み分けや方法は検討する必要があると思っている。

スポーツの魅力を活かしながら、地域の活力や、子どもたちや市民の元気を生み出していくスポーツコミッションになるよう、今後関係各所の皆さんと連携しながら、

どういった取り組みをしていくか考えていきたい。

３　議題（２）射水市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について（報告）

■委員

時間外在校等時間について、令和８年度は過去年度と比べ劇的に減っているように思えるが、その要因は何か。

■事務局

本計画の４月施行に向け、昨年１２月に文科省のワークショップを大門小学校で開催し、市内全小中学校の管理職を対象に研修した。研修後、管理職は各校で本取組の趣旨や内容を教職員に説明し、教職員の実践意識が高まり、現場で具体的に動き出したことが要因と考えている。

■委員

教職員の働き方改革について、時間数や業務量などの負担を軽減することにクローズアップしているような印象を受ける。この改革によって、教職員が心身ともに健康で、子どもと向き合う時間の質が高まることが一番の目的であってほしい。

４～６月の時間外在校等時間の割合が高いのは、新学期で信頼関係構築のため子ども一人一人と丁寧に向き合っているからだと推測される。８月はリフレッシュのための時間が取られているように見えることから、メリハリをつけた働き方をされているという印象だが、間違いないか。

■事務局

４～６月は新しい学級を作る時期であり、年度当初の提出物が多い。また、学習参観、運動会、校外学習等の学校行事も多く、準備に時間がかかる。学校行事は子どもたちの成長に大きな役割を果たすと考えており、時間をかけているところである。

今後も活動の狙いをはっきりさせてメリハリをつけた活動を工夫し、教職員が事務作業を行う時間の確保に努めたいと考えている。また、年度当初の提出書類の削減や提出方法の簡略化等、負担が少しでも減るように取り組んでいきたい。

■委員

令和８年度から学校の電話対応時間が変更となっているが、今後も時間短縮の予定はあるのか。もし短縮されるなら先生方は時間外在校等時間の短縮につながると考えられるため、自宅への仕事の持ち帰りなどを少なくでき、かつ空いた時間をリフレッシュの時間に利用いただくことで、子どもたちにパワーを入れていただけるような過ごし方ができるのではないかと思う。

働く保護者からすると、学校と連絡を取ろうと思っても仕事が終わってから電話をか

けるとつながらない時間帯となる場合もあるので、しっかり周知いただきたい。

■事務局

教員の勤務時間は基本的に８時１０分～１６時４０分となっている。今年度は留守番電話対応となる時間を１７時３０分～翌朝７時４０分とし、保護者へは年度当初にお知らせしたところである。毎年の状況を確認しながら、最終的には勤務時間帯を超えた電話対応は緊急時以外は行わないようにしたいと考えている。

また、各校の管理職には、緊急連絡用のスマートフォンを配布している。保護者の皆さんのご理解を得ながら、今後も進めていきたい。

■委員

不登校や外国人児童、障がいを持った合理的配慮が必要な子など、子どもたちが多様化していることに伴い、先生たちの指導も多様化していると思う。子ども同士のトラブルなどの対応で家庭に連絡したり、生徒指導を実施したり、可視化できないトラブルもあると推察される。

射水市は他市と比べて、学習サポーターやソーシャルワーカー、家庭教育支援員などの支援に関したくさんの予算をいただいていると思うが、このサポーターたちは先生たちよりも勤務時間が短く、その分先生たちに負担がかかっていると思う。可能であれば、もう１時間ほどサポーターの勤務時間を伸ばしていただき、その分先生方がもっと働きやすいような環境を作っていけたらよいのではないか。できる範囲で市も応援していただきたい。

■事務局

今ご指摘いただいたとおり、学校の教員は休んだ子どもへのサポートや突然の生徒指導案件があり、時間外在校等時間がなかなか減らないところがある。少しでも０に近づけるように、教育委員会でも引き続き検討を進めていく。

■教育長

現場は頑張ってくれている。１２月に実施した文科省のワークショップで、各校の先生方が自分の働きぶりを見直す機会が増えたのはよかった。これまでは際限なく物事に取り組んでいたところがあった。

今、射水市の教員の年齢構成は若い世代が多い。学校では効率的に事務を進めるためＩＣＴ活用などに取り組んでいるが、これだけ順調に効果が出ているので、今年度はどんな結果になるのか楽しみである。

先ほど委員の発言でもあったが、子どもたちのことを考え、楽しく学べる環境を整えることも非常に大事だが、先生方が自身も学びながら、効果的な教育の在り方や子どもへの寄り添い方を身に付けていかねばならない。両立はなかなか難しいところがある。現在の取組を進めていく中で、どこかでまた壁が来るかもしれないが、今やっていることをより充実させた形をキープしながらブラッシュアップしていくことを、

現場の先生方と一緒に考える教育委員会でありたいと思う。みんなで考え、知恵を出し合っていきたい。

■市長

１２月にワークショップを実施していただいて、教職員の皆さんにもＩＣＴ活用や会議のやり方等いろいろと工夫していただき、成果は出てきていると感じる。電話応対の時間を短縮させていただいている中で、保護者の皆さんにとっては緊急時が心配だという声もあるかと思うが、そこは学校でもしっかり対応していく必要がある。

一方で、配慮が必要な生徒さんのサポートや様々な問題に対応しながら、１か月の時間外在校等時間が４５時間以内という目標を達成するのはなかなか難しい。学校だけでは対応しきれない部分を、サポーターさんや地域、ＰＴＡ、関係機関とも連携しながらより良い環境を作っていけるように考えていかないといけない。また、地域の皆さんやＰＴＡのいろいろなネットワークの中で、いろいろな方とかかわったり連携したりしていくことも考えていけるとよいのかなと思う。

いずれにしても、目標を達成できるように、今後もいろんな部分で教育委員会と連携できる部分はしっかりやっていきたいと思っている。